

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルーテ		
事業所名	グループホーム よろこび B棟		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和年月日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様に寄り添い穏やかに過ごせるよう、スタッフ全員でサポートする。 新しい理念に基づき利用者様のための施設づくり。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、岩泉町西部の国道を望む高台に位置し、豊かな自然環境に包まれ住宅が点在する地域にある開所6年目の2ユニットのグループホームである。今年4月に理念を見直し、「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」とし、利用者の心により一層寄り添った支援に注力している。事業所では地域との連携を重視し、地域に回覧する広報誌を通じて事業所を周知しており、地域からの理解が協力が進んでいる。多くの利用者が協力病院である済生会岩泉病院の月3回の訪問診療を受診しており、看護師職員の存在と併せて安心感がある。また、防災士の資格を持つ職員が3人おり、地域の福祉避難所にもなっていることから、災害に備える意識は高いものがある。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに提示し共有し実践している。	開設5年の節目に、職員も参加して理念を見直し、今年4月から「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」と改めた。新理念をホール内に掲示するとともに、毎月の職員会議で唱和して共有化を進めている。利用者の笑顔を大切に日々支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ禍でもありできていない。	地域の自治会に加入し、回覧板で事業所の広報を周知し、地域の理解と協力が得られている。また、地元の中学生在が職場体験で訪問している。コロナ禍で多くの交流活動を休止していたが、地域の公民館で認知症カフェの開催を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていないので検討が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見や情報が出されたら他職員にも提示し共有してる。	書面開催が続いていたが、今年7月から集合開催を再開した。委員には、自治会長や民生委員、老人クラブ代表、消防団員に家族代表も加わり、バランスよい構成となっている。会議では地域交流や避難訓練、認知症カフェなどについて、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し取り組んでいる。	運営推進会議の委員として参加している地域包括支援センターの職員から各種情報の提供があり、協力関係も築かれている。町主催の地域ケア会議には事業所からも参加し、情報交換や研修を行っている。大雨の際、高齢者避難開始の発令時には町から状況確認の電話もあり安心感がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠せずに見守ることが出来ている。	身体拘束防止委員会は管理者と、事務長、ケアマネで構成され、3カ月毎に開催されている。職員対象の研修会は年2、3回行っている。特にスピーチロックの減少を目指して、年2回の「スピーチロックゼロ月間」を設けた取り組みを行っており、職員の意識が高まり成果を挙げている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ機会はまだ確保できていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一気にお話するので「後日でも不明な事はどうぞ」とお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し意見や要望があった時は検討している。 会議の内容は後日職員へ提示している。	運営推進会議の開催は、各家族にも参加を案内するほか、意見・要望を伺っている。家族からは、「料金の支払い方法」に関する意見が寄せられている。利用者は、食べたいものや入浴、外出希望等の要望が多く、できるだけ希望に沿って対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	希望を伝え検討はしているが、すべてを反映させるのは難しいと思う。	毎月の職員会議では、主に利用者へのケアの在り方について自由に意見を出し合っている。また、施設設備や備品、食材購入等についても意見が出され、改善につなげている。年2回は社長との個別面談が行われて、各職員の要望等を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を満たすにはまだ届いていないと思う。		

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促しはするが参加する職員は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ新型コロナウイルス感染対策により出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望を伺い助言、支援することで信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と同様に傾聴にし伺うことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態により他の支援が必要な場合、照会している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、ご本人様の残存機能を活かし役割を持ち、生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の現状を伝え、ご家族様と共に支えていけるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍であまり出来ていない。	利用者の知人が来所し、ベランダや玄関で面会して和んでいる。また、家族の協力で外出や自宅に外泊する方もいる。地元にある馴染みの美容院に出かける利用者もいるが、多くの方は訪問理容師を利用しており、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えをしたり、レクをする事で馴染めるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡をくだされば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外へ行かれない利用者様と一緒に外に出てお花を見たりお話ししながら散歩します。	半数以上の利用者が、思いを言葉で伝えることができる。ラーメンなどの食べ物や外出の希望が多く出され、希望にはなるべく対応するよう心掛けています。言葉で表せない方には、職員から話し掛けて、その仕草などから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努力はしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食器拭きや洗濯物たたみなど出来る方には無理のない範囲でお手伝いをさせていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成し会議にて共有している。	介護計画の原案はケアマネが作成し、職員カンファレンスで検討し正式決定している。当初の計画は3ヵ月毎にケアマネのモニタリングを基に見直しを行い、カンファレンスで検討している。計画の見直しも3ヵ月毎に行われ、医師からの情報や家族の意向も加味して変更されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	だいたい実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に基づいて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪されたい方には美容室さんに来ていただいて散髪していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所、薬局が連携して支援している。	コロナ禍以降は大半の利用者が済生会岩泉病院の月3回の訪問診療を受診できるようになり、職員の負担が軽減している。精神科受診の2人には家族が同行している。看護業務には看護師の職員が対応している。主要病院から遠隔の地にあるが、医療連携体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを伝えやすいように連絡様ノートを使用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の情報は入りにくい状態にある。		

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の見極めに苦慮している。	事業所では看取りは行っていない。重度化が進んでもギリギリまで生活支援を行い、家族には状態の悪化を説明し、特養や老健施設等への住み替えに向けて支援している。また、緊急入院して退所となる場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施している。事業所には防災士が3人おり、職員の防災意識は高いものがある。ハザードマップでは、浸水や土砂崩れの地域指定はなく、地域の福祉避難所ともなっている。災害時に備えて、食糧や水、ストーブ等も備蓄している。	夜間想定訓練を予定しているが、薄暮時間に行う実践的な訓練を期待したい。併せて、近所の方に避難協力者として参加を得られるよう働きかけられたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や状況に応じた対応をしている。	理念にある「気持ちに寄り添い思いやりの心」を念頭に、利用者が和やかに暮らせるよう、人格を尊重したケアに努めている。利用者へは「さん」付けで話しかけることを徹底し、プライバシーを損なわなよう羞恥心に配慮した入浴や排泄の介助を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話を聴き本人希望で対応できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか難しい時もありますが、なるべく出来るよう努力はしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それなりに行っているよう努力をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は季節に合った食材を利用し利用者様の皆さんが楽しめるよう努力しています。	職員が利用者の嗜好も参考にして献立を作成し、各ユニット毎に調理している。利用者は食器拭きや、テーブル拭きなどを手伝っている。誕生会などの行事の際には、利用者の希望を取り入れた特別食を提供している。近所からの野菜等の差し入れも多くあり、秋には柿の皮をむき干し柿づくりを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録を確認しながら一人ひとりの接種チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ行っている。	排泄チェック表を基に一人一人の排泄パターンを把握して、見守りと声掛け、誘導を行っており、多くの方がトイレを利用できている。自宅にいた時より状況が改善して布パンツ使用となった方もいる。夜間のみポータブルトイレ使用の方が数名いる。失禁時には、優しい声掛けで周りに気づかれないよう対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘解消のため体操等を行い、下剤を使用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの人数も限られているため合わせられないと思う。	週2回の入浴を基本としているが、職員の手手が足りないため個々の希望に添った支援ができない場合もある。入浴を嫌がる方はいるが、日を変える等で対応している。入浴時には職員と1対1になって会話も弾むこともあり、大事な時間である。	入浴には心身共に良好な状態を保つための効果があり、加えて季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯を楽しんだり、入浴剤を使用するなど、楽しみの提供も工夫されるよう期待したい。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や眠そうにされている時には休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	8割方理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き洗濯物たたみ、花の水やり手入れ等されている人もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に1~2回程度ドライブを楽しんでもらってる。	穏やかな日には事業所の周辺を散歩したり、テラスで日光浴をしながら高台からの眺めを楽しんでいる。お花見や紅葉狩りなどで、近くの平庭高原や早坂高原にドライブに出かけるなどして楽しみを提供している。お盆には家族の協力で実家に外泊する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方だけ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の方だけ。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出する機会が少ないため、季節を意識した壁面飾りで話題作りや利用者様と一緒に工作したりしている。	食堂を兼ねたホールには日差しが良く入り、高台のために眺望が素晴らしく、四季の変化が楽しめる環境にある。室温はエアコンと加湿器により快適に保たれている。壁面には利用者の塗り絵の作品や、季節感あるハロウィンなどの飾り付けがあり、利用者は体操を楽しんだりしてつろいで過ごしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で独りになるのは難しいので居室で過ごす時間を妨げない。 食事以外は自由に席を利用してもらう等、なるべく個々を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑然とした部屋に見えても職員の主観で判断したりせず、利用者様の意見を確認しながら整理整頓を支援している。	各居室にはベッドとチェストが備え付けられ、エアコンと加湿器で適温・快適に保たれている。利用者はテレビや衣装ケース、家族写真、カレンダーなどを持ち込み、壁には塗り絵の作品などが飾られ、居心地よい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアや職責に利用者様の名前が貼ってあることで自室や席の記憶がなくなって不安になる利用者様にとって、目印が安心材料になっている。		